

光のふしぎ ー黒の魅力とは？ー

吉川暢子

私が住んでいる香川県高松市には幼児教育で有名なレッジョ・エミリア・アプローチを参考に、幼稚園や保育園に芸術家を派遣するという取り組みが行われています。その事業は「高松市芸術士®派遣事業」と呼ばれており、私はその芸術士の一人として年間20回ほど、幼稚園の子どもたちと造形活動を行っています。

子どもたちと色水遊びをした時には「赤と青を混ぜて・・・」というように、まず混色を伝えるのではなく、子どもたちがやってみて気がつくことを大切にしています。そこでは、いろいろな色を混ぜてたくさん色をつくることを経験していきます。

子どもたちとPanasonic社が開発中の「ILLUMME」（球体状LED）を使って光で遊んだ時のことです。「ILLUMME」とは、Scratchをベースにしたプログラムで制御ができるLED照明で、光の色や効果を楽しむことができます。

子どもたちは「ILLUMME」の赤い光を見て「火が燃えているみたい」「めっちゃ熱い」などと色からイメージを膨らませて遊んでいます。しばらくすると「黒にしたい」と言い始めました。光も赤、緑、青という3つの色を混ぜれば、いろんな色をつくることができます。ただし、光は混ぜていくとだんだん白っぽく、明るくなっていきます。なかなか黒にはなりません。「なんで黒にならないんだろう？」「黒にしたい！」と口々に。色水遊びや絵の具を使った時の経験から、色がまざると黒になっていくというイメージがあるのでしょうか。

「黒」をつくるには？と考えます。

部屋が暗くなると「宇宙」などといいながら、楽しんでいる姿をみると、黒は子どもをワクワクさせ、想像力をかき立てる力がありそうです。遊びの中で、絵の具などだけでなく光の混色も楽しみ、その不思議さや面白さを楽しんでほしいと感じました。



「ILLUMME」の活動の様子

*もうすぐ開催される大阪万博のパナソニックのパビリオンに大阪の子どもたちが「ILLUMME」でつくった演出が実装されるようです。

吉川暢子（香川大学教育学部 准教授）

今回のトピック カラスクールの現場から Part2

第10号では、前回に続き「カラスクールの現場から」というテーマでカラスクールにて講師をされている会員の方にご執筆いただきます。Part2は、色彩講師として幅広くご活躍されている吉川京子さんをお願いしました。吉川さんには色いろサロン第10回にもご登壇いただき、トピックについてお話しいただく予定です。

時代によって変化するニーズに対応する授業の現場

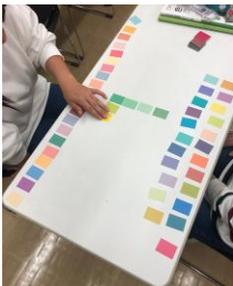
吉川 京子

私の在籍するクリエ・スクールは、女性の社会進出を応援する社会人向けのカラー・フラワー・エステなど多数の講座を運営してきました。現在、母体である三幸グループで運営する介護・福祉業界の講座と共に、カラー講座を運営しています。

発足当時は社会的なブームもあり、色彩の知識を「趣味」の域から「ビジネス」への活用までといった幅広い分野の講座に人気がありましたが、現在のカラー講座は、深くコアな部分を学び仕事に活かす講座と、お楽しみ的な単発セミナーに二極化しています。

また、大学・企業などで実施している講座は、コロナの大流行前後で大きく様変わりしました。以前は完全対面式講座が主流でしたが、コロナ禍での急激なネット環境の整備などの影響もありオンライン方式の普及と、現在は対面式の復活など、様々なニーズへの対応力が必要です。

講義スタイルは、以前は重たい教材を持ち歩き、板書したものを受講生が書き取るものが主流でしたが、現在はプロジェクターに資料を投影すれば良いので楽になりました。しかし、受講生は投影したものを見るだけで、重要な部分は写真を撮れば間に合うため、居眠りをしないようなスピード感と、アクティブラーニングを取り入れた講義を行っています。オンラインカフェでは、その一例をご紹介します、皆様にも体験していただく予定です。



アクティブラーニングの一例



オンライン授業の様子



混色を学んで自分だけの風鈴作り



プロフィール

吉川京子(ヨシカワ キョウコ)

ゼネコン在職中に生涯学習の一環として色彩を学び、その奥深さと幅広さに魅了され、2002年に異業種から色彩講師として転職し、現在に至る。

社会人向けや大学での色彩の教育活動を行いながら、カリグラファー、アクセサリー作家としての活動も並行。「彩り豊かな笑顔の生活」を世に広げるべく、日々奮闘中。

(株)日本教育クリエイト クリエ・スクール

跡見学園女子大学 兼任講師

会員リレーコラム

記憶と色彩の関係性：ロマンチックな探求

生まれて初めて認識した色を覚えている人はいるのでしょうか？

学生時代に色彩学教授が『赤ちゃんが一番最初に認識する色みは赤系で生命の色とも言われ母親の胸色はその目印とし、母乳からの栄養摂取に繋がり、言語取得には赤い唇が言葉を学ぶための視覚的な手がかり』と学び、色彩と生命との繋がりに興味を持ちました。生後直ぐは色の識別能力が発達してなく無彩色の濃淡（コントラスト）認識から始まり、赤系から徐々に色みを認識します。赤色は波長が長く、刺激が強いためだと言われています。

また夢の色彩は？夢色は私たちの普通の生活に限りなく密着していて視覚・聴覚・味覚・臭覚・触覚の五感で感じとり、心理状態や経験によって変化すると考えられています。となると夢の色は人によって違うのでしょうか。記憶と色の関係性は永久にロマンチックな研究テーマですね。

田中 小百合（タナカ サユリ）
アトリエトルリリー 代表

第9回色いろサロンを開催しました

2025年1月31日（金）に、第9回となる『色いろサロン』を開催しました。「カラスクールの現場から Part1 時代の変化と共に進化するカラスクールの役割」をテーマとし、橋本実千代さんにお話しいただきました。

<参加者からのご感想>（一部抜粋）

『これまでの色彩講座の展開、時代の変化と共に色彩に関する学びのブームの詳細を知ることができて興味深かったです。現代の人々の学びに対する姿勢の現状、これが一番貴重でした。』

『今回のお話の中で、最近の人々は自分で調べて何かを得ようとする力が昔に比べて低くなったということにとっても共感しました。私たちが学べる環境にいることがとても恵まれているものであることを改めて実感するとともに、受け身ではなく自分から積極的に学ぼうとする姿勢をこれからも意識していこうと今回のお話の中で改めて実感しました。』

『生涯学習の視点から、わかりやすくスクールの概要や受講者の現状などをお話しくださりとても興味深かったです。ご自身の携わっておられる活動について、色彩教育とからめてとても丁寧にご教示いただいたと思います。色彩検定の歴史を壮観できたのも良かったです。』

第10回は3月28日（金）20時より開催予定です。たくさんのご参加、お待ちしております。これまでの『色いろサロン』のトピックと登壇者一覧

http://shikikyo.jp/backnumber/iroirosalon_01.html

Color Circleのバックナンバーはこちら（PDFでダウンロードできます）

http://shikikyo.jp/backnumber/color_circle_01.html

オンラインセッション 第10回『色いろサロン』のご案内

Color Circleで取り上げたトピックに関連するオンラインセッション『色いろサロン』の第10回を開催いたします。今回はテーマを『カラスクールの現場からPart2』として、執筆者の方に話題提供をしていただきます。

『色いろサロン』では、登壇者の方へのご質問はもちろん、参加者同士で意見交換を行い、会員同士の交流ができる場にしていきたいと考えています。

視聴のみのご参加も大歓迎です。会員の皆様、並びに本研究会にご関心のある方々、奮ってご参加ください。

●日時：2025年3月28日（金）20：00～21：00

●方法：ZOOMによるリアルタイム配信

●オンライントークの会の流れ

・Color Circle vol.10のトピック執筆者によるお話

吉川京子さん

名取初穂さん（司会）

・トピックに関する質疑応答

・参加者全体、またはグループに分かれての意見交換

●参加費：

本研究会会員の方・・・無料

一般の方・・・1,000円

非会員のうち、学生で会員の紹介がある場合は無料

参加申込と同時にご入会いただいた場合は無料

●参加費のお振込先：

「郵便振替」「銀行振込」のいずれかよりお願いいたします。

郵便振替：00150-6-136277 色彩教育研究会

銀行振込：ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキョウ）店 当座 136277 色彩教育研究会

●お申し込み方法：以下のGoogle フォームからお申し込みください。

<https://forms.gle/etjcrqjHZVWQ8Evr9>

参加申込・参加費納入期限：2025年3月26日（水）

⇒3月27日（木）にZOOMのURLをお送りいたします。

※sikisaikyoiku@gmail.comからのメールが迷惑メールに分類されないよう、設定をお願いいたします。

※3月27日中にメールが届かない場合は、恐れ入りますが、事務局までご連絡をお願いいたします。

★こんなことを聞きたい、質問したい！等のご要望は、ぜひお申込フォームに記載をお願いいたします！

お問い合わせ先：日本色彩教育研究会事務局 (sikisaikyoiku@gmail.com)



日本色彩教育研究会HP <http://shikikyo.jp/index.html>

発行人：茂木一司

製作：Color Circle編集委員会

(名取初穂, 島田由紀子, 手塚千尋, 中島千絵, 宮野周, 大内啓子, 佐々木三公子)

